



NICながおか通信

# そいがあて



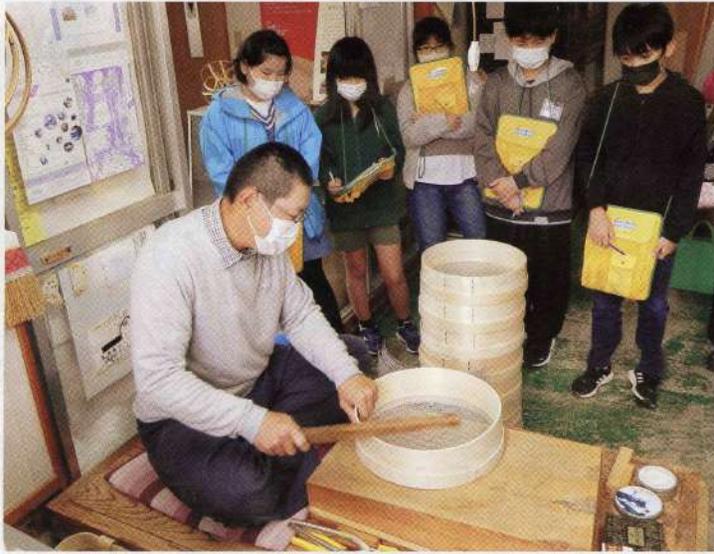
発行 新潟日報・長岡販売店グループ  
印刷 株第一印刷所  
No.246

「そいがあて」とは長岡弁で納得した時の“相づち”の意味です

November



▲寺泊山田の曲物製品(企画展「越後のわっばー曲物づくりのいまむかし」より。長岡市立科学博物館提供)



▶工業用ふるいの製作過程を見せる足立茂久商店の足立照久さん。小学生たちは見学の後、小さな曲輪を使って工作体験も。ふるい作りの一端を楽しく学んだ

県伝統工芸品

## 寺泊山田の曲物

新潟県が今年初めて指定した「県伝統工芸品」11品目の中から、「寺泊山田の曲物」を紹介する。総合学習の一環で見学に来た長岡市立寺泊小学校の子どもたちと一緒に、県内唯一の製造元、足立茂久商店を取材した。

「今は世の中にあまりない仕事ですが、ずっと昔はふるいを作る『ふるいや』が、寺泊山田にたくさんあって発展しました」

県内で唯一、曲物を製造する足立茂久商店の工房。祖父や父の後を継いで曲物職人になった11代目の足立照久さんは、地域の産業を学ぼうと見学に来た寺泊小の5年生たちに説明しながら、ふるい製作の一部を実演して見せた。

曲物とは、薄く板状にした木材を円形に曲げ、合わせ目を木の樹皮などでとじたもの。その歴史は長く、少なくとも奈良時代には生活用具として曲物製品が使われていたという。

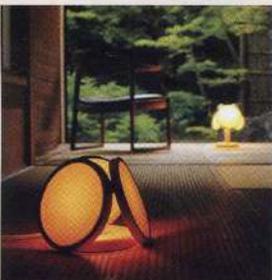
日本海に面した寺泊山田集落では古くから、漁業・農業の冬の生業として、曲物の中でも農作業で使う「米通し」など、ふるい作りが盛んだった。山田の篩業組合に伝わる江戸後期・天保13(1842)年の「仲間取究書」には、製造元である集落各戸の屋号と製品の売り先、取引価格などが記され、既にこの時点で組合が存在していたことが分かる。

昭和40年頃まで同地に十数軒の製造元があったが、農業の機械化などにより需要が減り、作り手は徐々に減っていった。昭和57(1982)年、「大字山田の曲物製造技術」は旧寺泊町文化財(現長岡市無形文化財「工芸技術」)に指定された。

このたび「寺泊山田の曲物」が県伝統工芸品に指定されて、足立さんは「歴史ある山田の曲物を認めてもらい、うれしく思う。認知度が上がるきっかけになれば」と歓迎。「山田の曲物は昔から役立つ道具を作ってきた。その特色をもっと発信していきたい。伝統の技で、今に生きるものづくりに励みたい」と話していた。

▽足立茂久商店：長岡市寺泊山田1289。主な製品は、ふるい、裏ごし、蒸籠(せいろう)、電子レンジで使える「わっばー」(ミニ蒸籠)。わっばーは5寸(約16cm)9350円など、それぞれ多種サイズある。購入や工房見学について問い合わせは同店、0258(75)3190。

### 暮らしを彩る新しい曲物



伝統の技を生かし新たな製品も展開する。(時計回りに)曲輪ツール各40,590円、曲輪の球体(5寸・約16cm)9,625円から、シェードに小国和紙を用いた「ゆきほのか」テーブルライト33,000円

今昔の曲物を紹介

科学博物館で企画展



古くから人々の暮らしと共にあった曲物。その歴史を紹介する企画展「越後のわっばー曲物づくりのいまむかし」が11月26日から来年1月15日まで、長岡市立科学博物館(幸町2)で開かれる。写真はチラシ。長岡市和島地域の山田郷内遺跡から出土した約700年前の手洗いおけをはじめ、和島地域の国指定史跡・八幡林官衙遺跡など県内各地の古代・中世の遺跡で発見された曲物を紹介。合わせて、現代まで製作技術を継承する長岡市寺泊山田の曲物づくりの道具・材料・製品などの資料を展示する。

▽越後のわっばー曲物づくりのいまむかし：11月26日～1月15日。入場無料。12月5日、19日、12月28日、1月4日は休館。幸町2-1-1さいわいプラザ1階。

○曲物づくりの実演と講座：12月4日午後2時～4時。さいわいプラザ3階の講座室。実演は足立茂久商店の足立照久さん。講座は科学博物館学芸員の丸山一昭さんが、遺跡から出土する越後の曲物について解説する。定員50人。申し込みは科学博物館、0258(32)0546。